

組織的調査研究活動推進事業（岩崎地区）

赤羽 光秋・田村 真通・涌坪 敏明

発 表 誌 名

昭和56・57年度組織的調査研究活動推進事業報告書

抄 録

1. 西津軽郡岩崎村を活動の対象地域とし、研究・行政の両部門からなる活動チームにより当該地域における漁業振興上の技術需要に対応する指導方針を確定すると同時に、重要試験、研究課題を摘出し、その解決促進をはかることを目的として調査を実施した。
2. 漁業経営調査、漁民意識調査、漁業実態調査を実施し、結果として岩崎地区は隣接海域に比べて漁船が小型でかつ経営規模が零細であり、また、漁業種類も少なく、漁業の専門分化が発達しておらず、カレイ類については資源利用の余地を残していることが判った。また、特に夏秋期の漁業種類は貧弱であり、このことが夏秋期に出稼が多いことに繋がっているように見受けられた。
3. このようなことからウスメバル、マグロ等の夏秋期の漁獲対象資源の増殖あるいは漁獲方法の確立が望まれる。また、ヤリイカ、サケ、マス、沿岸藻類、貝類の増殖が必要であり、一方、現状では低利用なカレイ類の利用拡大を図ることが重要であると結論づけられた。